

2 ヤマドリ

(キジ目)

Syrmaticus soemmerringii

兵庫県ランク:要注目

繁殖個体群:注 越冬個体群:注 通過個体群:調

環境省ランク:指定なし

種の概要

日本固有種。北海道、本州、四国、九州にそれぞれ留鳥として生息する。兵庫県には亜種ヤマドリが北部に、亜種シコクヤマドリが南部に生息するとされているが、境界は定かではない。キジとともに狩猟鳥の代表とされるが、近年減少傾向にある。山地の森林に生息する。兵庫県では周年見られる。森林の沢筋を好み、草木の実や昆虫類、クモ類、ナメクジなどを採食する。秋から冬には群れとなることもある。

国内分布

北海道、本州、四国、九州



写真提供:三谷康則

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

神戸市、姫路市、(西宮市)、(洲本市)、豊岡市、(西脇市)、(宝塚市)、(川西市)、(三田市)、(加西市)、篠山市、養父市、丹波市、南あわじ市、朝来市、(淡路市)、宍粟市、たつの市、猪名川町、多可町、(市川町)、(神河町)、太子町、(上郡町)、佐用町、香美町、新温泉町 ※県内繁殖有



主要な選定理由

影響の人為性				生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の希少性		
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ねぐら休息環境・	局地的繁殖	希少

県内における生息状況およびその他特記事項

ランク変更なし。

かつては県内各地の丘陵から山地の森林に普通に見られたが、近年、減少している。特に県中南部で、個体数・分布域とも減少傾向が著しく、亜種シコクヤマドリの存在が危ぶまれる状況である。また、一時期、県内でも養殖ヤマドリが放鳥され、在来の個体群との交雑が懸念されたが、近年、放鳥は行われていない。

保護上の留意点

生息環境である夏緑広葉樹林の保全が重要。狩猟圧も個体数の減少の一因となるため、適切な狩猟のあり方の検討や生息域の鳥獣保護区の指定などが必要。